

## 海外安全対策情報（2018年7月～9月）

### 1 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

カンボジアでは、都市部や観光地を中心に、ひったくり、置き引き、スリ、いかさま賭博等の一般犯罪や、拳銃やナイフを使用した強盗等の凶悪犯罪が多発しており、多くの日本人観光客や在留邦人が被害に遭っています。特にひったくり事件は、日本のそれとは全く別物で、時間帯（朝、昼、夜）・場所（大通り、裏通り、通行量）等に関係なく発生しています。バッグをたすき掛けにしたり、車道とは反対側に持つなどの対策を取っていたにもかかわらず、強引に奪い取られ、怪我を負う被害が発生しています。また、トゥクトゥク（三輪タクシー）やモトドップ（バイクタクシー）で移動中にひったくりに遭い、転落して重傷を負う、たすき掛けにしていたバッグを強引に掴まれ、引きずり回されて怪我をするなどの被害状況も度々報告されていることから、移動の際には「バッグなどの荷物は持たない」、「タクシー等の自動車を利用する」、「周囲への警戒を怠らない」など、とにかく狙われないための対策が必要です。

また、9月23日には、プノンペンにおいて銃器を用いた銀行強盗が発生しました。そのような予兆を察知した場合はその場から離れる、不幸にもその場に出くわした場合には、銀行の金銭強奪が目的である銀行強盗の特性を念頭に置いて、抵抗はしない、逃走の邪魔をしないこと等に留意して下さい。

なお、内務省国家警察の統計による7月から9月の犯罪発生状況は以下のとおりです。

罪種	7月	8月	9月	合計
殺人	13	15	12	40
強盗	13	13	10	36
強姦	18	15	20	53
ひったくり	30	32	32	92
窃盗	82	88	78	248
詐欺等	18	15	17	50
傷害	66	58	57	181
わいせつ	4	2	1	7

### 2 テロ・爆弾事件発生状況

2008年のカンボジア・ベトナム友好記念碑における爆弾事件（負傷者なし）、2009年の国防省及びTV3（民放テレビ局）前における爆発物設置事件等、テロ関連の事件が過去に発生しています。現在のところ、大規模テロにつながるような情勢の変化は認められませんが、反政府勢力が本年4月のクメール正月期間中に爆弾テロを計画していたとの報道もあります。常に最新の情報を入手する、人の集まっているところに不用意に近づかない、不審な兆候を察知したら直ちにその場から離れるなどの安全対策を常に心掛けてください。

### 3 誘拐・脅迫事件発生情報

内務省国家警察によれば、2017年中の身代金目的の営利誘拐は5件、その他の目的の誘拐は3件発生していますが、日本人を対象としたものはありません。

### 4 日本企業の安全に関わる諸問題

現在のところ、日本企業の安全について特段の問題があるとは認識していません。

### 5 対日感情

現在のところ、我が国のカンボジアに対する和平プロセス以来の積極的且つ継続的な経済協力の実施等により、カンボジア国民の対日感情は概して良好であり、特段の反日感情は見当たりません。

## 主な被害事例と安全対策例

## 1. 基本的安全対策

## (1) 主な事例

- 犯罪被害に遭うまで、カンボジアは安全だと思っていた。
- 赴任当初は安全に気をつけていたが、だんだんと危機意識が薄れ「自分は大丈夫」だと思っていた。
- 大切な物（旅券、現金、クレジットカード、携帯電話等）を全て一つのバックに収納して持ち歩いていたら、ひったくりに遭い全て盗まれた。
- 被害に遭い警察に届けを出しに行ったが、英語も通じず、たらい回しにされた。
- 当国で重病となり、医療水準の高い近隣国の病院で治療する必要があったが、海外旅行保険に加入していなかったため、緊急搬送することができなかった。
- ひったくりに遭って負傷し、病院で治療を受けたところ、高額の治療費を請求された。

## (2) 安全対策例

- 大使館からの安全情報等をメールで受け取ることができるので、「在留届」の提出（※3か月以上滞在の場合）または「たびレジ」への登録を確実に行う。
  - 外務省海外安全ホームページ、当館ホームページ、当国内報道等あらゆる情報ソースを活用して、常に最新の情報を入手するよう心掛ける。
  - 危険な場所、野次馬等が集まる場所に近づかない。
  - 旅券は、海外で通用する唯一の身分証明書であることを念頭に、その携行や保管等については細心の注意を払う。
  - リスクの分散化のため、旅券、現金、携帯電話は別々に携行・保管する。
  - 英語が通用しない場合も多いので、通訳業務を行っている日系旅行会社や、信頼できるカンボジア語通訳の連絡先等を把握しておく。
  - 海外渡航の際には、必ず十分な補償のある海外旅行保険に加入する。
- ※ 被害等に遭わないための対策はもちろん重要ですが、仮に事件・事故等に巻き込まれてしまった場合に、被害を最小限に抑え、早期に回復するための対策も非常に重要です。

## 2. 強盗・ひったくり

## (1) 主な参考事例

- 午前1時頃、ナーガワールドから出てバイクタクシーでホテルに向かっていたところ、裏通りに入った瞬間、後方から接近してきたバイクの男に蹴り倒された上、拳銃を突きつけられてバッグを強奪された。（※カジノ周辺では過去にも拳銃を使用した強盗事件が発生していることから、夜間に同所周辺に行かれる際には細心の注意を払ってください。）
- 午前5時頃、リバーサイド周辺を1人で観光していたところ、後方から接近してきたバイクの男に、いきなり左腕をナイフで切りつけられ、バッグを強奪された。（※最近、ナイフでショルダーバッグの肩紐を切断して強奪する手口が報告されています。）
- 午前10時頃、リバーサイド周辺を1人で観光していたところ、見知らぬ男から、ズボン後ろポケットに入れていた携帯電話を抜き取られ、返還を求めて追いかけているうちに裏路地に連れ込まれた。そこで別の男数人が現れ、刃渡り20センチくらいのナイフで頭、左腕を切りつけられた上、倒れたところを殴る蹴るの暴行を受け、現金等を強奪された。
- マーケット周辺をトゥクトゥクに乗車して移動していたところ、後方から接近してきたバイク

の男にバッグを掴まれ、ひったくられそうになった。トゥクトゥクを飛び降りて犯人ともみ合いになったところ、犯人に刃渡り15センチくらいのナイフで切りつけられ、バッグを強奪された。

(※特にプノンペン都内では、時間帯(朝、昼、夜)・場所(大通り、裏通り、通行量)等に関係なくひったくりが発生しており、過去には、ひったくり犯ともみ合いとなり、拳銃で撃たれ重傷を負う事案も発生しています。)

- ショルダーバッグをたすき掛けにしてバイクに乗車していたところ、後方から来たバイクの男に肩紐部分を強く引っ張られ、転倒して腕を骨折した。(※トゥクトゥクやバイクタクシー等に乗車中にひったくりに遭い、転落させられたり、引きずられて重傷を負うケースが度々発生しています。)
- レストランやバーで知り合った外国人(自称中東系、欧米系外国人等)と一緒に飲酒したところ、酩酊状態とさせられた上、気が付くと財布等が抜き取られていた。(※プノンペン都内のリバーサイド周辺やシェムリアップ州のパブストリート周辺等で、度々、昏睡強盗事件が発生しています。)

## (2) 安全対策例

- 拳銃やナイフ等の凶器を出されたら、身体の安全を最優先とした行動をとる。
- 徒歩で外出する際はバッグ等を持たない。バッグ等を携行する場合は、必ず車両(メータータクシー等)を利用する。
- 所持金は小分けにして所持し、人前で多額の現金を出さない。
- トゥクトゥクを利用する場合には、利用したことのある信頼できるドライバーに依頼する。あるいは、ホテルやレストランの従業員に顔見知りの運転手を呼んでもらう。
- トゥクトゥクに乗車してからも気を抜かず、指示と異なる方向に向かっていないか、後方等に不審なバイクが併走していないかなど、常に周囲の様子を確認する。
- やむを得ずバッグ等を持ってトゥクトゥクに乗車しなければならない場合は、バッグ等を人目に付きやすい椅子や膝の上に置かず、しっかりと把持するとともに、常に周囲(特に後方)への警戒を怠らない。
- バッグは、肩紐が頑丈なリュックサック型を選び、しっかりと両肩に背負うか肩紐を両肩にかけて体の前で把持する。
- バイクタクシーは、ひったくられた際に転倒する危険性が高いので利用しない。
- 外出中は不審者や尾行者がいないか時々確認し、不審者等がいるのを確認したら、人が大勢いる商店等に待避してやり過ごす。
- レストラン等で知り合った外国人と飲酒する際は、昏睡強盗が発生していることを念頭に警戒を怠らない。

## 3. スリ・置き引き

### (1) 主な参考事例

- シェムリアップ州のアンコール遺跡群周辺を観光中、東アジア系観光客とみられる集団とすれ違った後、気がついたらバッグの中から財布がなくなっていた。
- 徒歩で散策していたところ、4、5人の物乞いをする子供らにまとわりつかれ、気が付くと、ショルダーバッグのチャックが開いており、中から財布がなくなっていた。
- リバーサイド周辺を観光中、女装した男3名から両手を掴まれ人気がないところに連れて行かれた。その後、男らは体を触って去って行ったが、気が付くとズボンのポケットの中に入れて置いた財布、携帯電話がなくなっていた。
- 大型ショッピングモールや市場で買い物をしていたところ、気が付くと背負っていたリュックサックのチャックが開いており、中から財布がなくなっていた。

- レストランで食事中、バッグを隣の椅子の上に置いておいたところ、気が付くとバッグがなくなっていた。

#### (2) 安全対策例

- トートバッグ等の中身が見えるバッグは使わない。
- 人混みの中では、バッグを体の前で把持する。
- レストラン等において、鞆等を隣のイスやイスの下等に置かず、膝の上で把持するなど、常に体から離さないようにする。また、席を離れる時は、鞆等をその場に放置しない。
- 女装した男性や子供による抱きつきスリも報告されていることから、近付いてくる女性や子供に対して警戒心を怠らない。

### 4. 空き巣等の侵入犯罪

#### (1) 主な参考事例

- サービスアパートメントに住んでいたが、外出から戻ってきたら空き巣に入られていた。防犯カメラを確認したところ、犯人は誰でも立ち入れる階段からアパート内に侵入した上、防犯カメラの死角となっている窓から部屋に侵入していた。
- ホテルに宿泊し、部屋のテーブルの上にポーチ（旅券、現金等在中）を置いていたところ、外出から戻ってきたらポーチがなくなっていた。

#### (2) 安全対策例

- サービスアパートメント等に入居する場合には、警備員や防犯カメラ等の警備設備の整っている物件を選定する。
- 玄関ドアは枠も含めて頑丈であるか確認し、2個以上の鍵を備えるほか、扉を開けなくても来訪者を確認できるようにドアスコープ及びチェーンロックを設置する。
- 玄関ドアの周囲に小窓がある場合、小窓を壊されて鍵が開けられる場合もあるので鉄格子等を設置する。
- 窓は格好の侵入口であることから、窓枠も含めて頑丈であるか確認し、屋根、屋上、隣家等からの侵入が可能である場合には鉄格子等を設置する。
- 外出時や就寝時には、玄関ドア、各窓を確実に施錠する。
- 室内に貴重品を放置せず、必ず金庫等に入れて保管する。
- ホテル室内の金庫からの窃盗被害も報告されていることから、リスク分散化のため、旅券と現金を別々にするほか、現金も小分けに保管する。

### 5. いかさま賭博詐欺

いかさま賭博詐欺とは、犯行グループが、主に単独で観光をしている邦人旅行者を狙って、言葉巧みにアジトに誘い入れ、いかさま賭博を持ちかけて、最終的に多額のお金をだまし取る犯罪です。

#### (1) 主な参考事例

- 犯人の声かけ場所は、プノンペン都内の王宮、ワットプノン、セントラルマーケット等の市場、大型ショッピングモール等の観光客が多く訪れる場所が多い。
- 犯人は、東南アジア系の男女（カンボジア人以外を名乗るケースが多い。）である場合が多く、土地勘がないことなどを確認するため、声かけの最初の段階で、日本人であること、短期滞在の観光客であることを確認する。また、警戒心を解くため、「親族（妹、姪など）が日本に行く予定があるので日本のことを教えて欲しい」、「自宅で食事をしながらゆっくり話そう」などと言葉巧みにアジトに誘い込む。
- アジトにおいていかさま賭博だと気が付き、ゲームをやめようとしたが、マフィア風の男が現

れ、所持していた貴重品（パソコン、カメラ、携帯電話等）を担保として取られたとのケースも発生。

## (2) 安全対策例

- いかさま賭博詐欺の特徴（手口）を知っておく。
- 安易に旅行中に知り合った人の誘いに応じて一緒に行動しない。
- 安易に自分の宿泊先や連絡先、滞在先を教えない。
- いかさま賭博に気が付いたら、犯人を刺激しないよう注意しながら、脱出の機会を窺う。
- アジトから解放された後、仮に同アジトの場所を覚えていたとしても、絶対に戻らない。

## 6. 交通上のトラブル

### (1) 主な参考事例

- 人身事故を起こして逃走した邦人が、現地人にバイク等で追跡され、逃走先で2度目の事故を起こし車両が停車。現地人から車から引きずりだされ殴る蹴るの暴行を受けた（その後、警察官が拳銃で威嚇射撃を行い救出）。

### (2) 安全対策例

- 必ず保険に加入する。
- 交通ルールが遵守されていないことから、自分では極力運転しない。自分で運転する場合には、危険を予測しながらの運転を常に心掛ける。
- 自分で運転して事故をおこした場合、日本と同様に負傷者の救護、警察への通報、保険会社への連絡等を速やかに行い、絶対にその場から逃げない。